

(社) 日本原子力学会  
第64回倫理委員会議事要旨

日 時 平成24年6月20日(水) 15:00~17:30  
場 所 日本原子力学会事務局 会議室  
出席者 北村委員長、大場副委員長、作田幹事、内山委員、中野委員、平野委員、  
弘津委員、宮越委員、山本理事(9名、委員名簿順)

配布資料

- 資料64-1 第63回倫理委員会議事要旨(案)  
資料64-2 2012年秋の大会(9/19-21)企画セッション提案書

議事

0. 当日の13:30~15:00までは委員会成立条件の過半数の委員出席がなかったため、事前打合せと位置づけ、問題点の整理などを行い、本委員会での議論がスムーズに行えるようにした。

1. 資料64-1により前回議事要旨(案)を確認し、次の事項を修正することで承認された。①1項において、「結局は社会的コストの問題となってしまうが、現在、資金提供を受けている方は、資金提供を受けている会社、組織の研究評価等には加わらないなど、わかりやすいルールが必要。」を「結局は社会的コストの問題となってしまうが、現在、資金提供を受けている方は、資金提供を受けている会社、組織の審査、許認可等の意思決定や研究評価等には加わらないなど、わかりやすいルールが必要。」とする。②7(2)項のホームページサーバーについては、作田幹事と山本理事が担当することを明記する。

議事要旨の確認において、以下の議論があった。編集委員会および理事会への働きかけは、論点を整理したメモを作成の上あたるほうが良いので、作田幹事はその素案を作成することになった。

ケースブックの送付時期は、大場副委員長の送付先決定次第、事務局から一斉に各委員に配送されるとの説明が作田幹事からあった。

2. 資料64-2により作田幹事から2012年秋の大会企画セッション提案書についての説明があった。日時は、9月30日(木)11:00-12:30、場所はA会場と決定した。予稿の作成については、現在、西原先生にお願いしており、予稿原稿を入手次第、本提案書を最終版に修正し、事務局に提出することとし、作田幹事が担当することとした。

3. その他の議題として、以下の議論があった。

(1) 利益相反問題に関して、このままでは社会の信頼を失うとの意見が学会員から寄せられた。本件に関しては、重要な問題であるので、学会としてその立場を表明する方向で理事会に働きかけることとした。この点については、作田幹事が要点をまとめたメモを作

成の上、山本理事があたることとした。

本意見表明に対しては、倫理委員会宛となっていたため倫理委員会から回答を行ったが、本文内容では学会役員の見解を求めていたため、今後このようなメールは担当理事に連絡することとした。また委員会として回答の際は、メール審議を行い検討することから時間を要してしまうが、意見表明に対しては速やかに返事の方が良い。そのためのルールを作田幹事が作成することとなった。

- (2) 倫理委員会の職能と、一般の方が持っているイメージに乖離がある。倫理委員会という名称からくるものと思われるが、一般の方は監査機能を有していると思っている。当委員会は、学会員の倫理意識を高揚、浸透させていくための推進機関である。ただ、学会に対して積極的にものを言っていくことは、方向性としては良いのではないかとの意見が出された。
  - (3) 委員の増強については、現在難しい状況ではあるが、候補者をリストアップし、各委員が分担であたることとした。また、6月末で委員の就任期間が満了するため、出席委員に次期就任可否について確認した。弘津委員からは退任の申し出があり、了承された。その他の委員は、就任継続の意向を確認した。欠席委員については、作田幹事が後日、メールで確認することとした。
  - (4) 倫理規程の改訂については、集中して議論できる環境を設定する方向で検討することとし、平野委員が検討用のワークシートを作成することとした。
8. 次回倫理委員会は、副会長、理事が出席できる日程を大場副委員長が調整し、後日連絡することとした。

以上